

科目名	実習・演習 2（レコーディングエンジニア専攻）							年度	2025
英語科目名	Training and exercises 2							学期	後期
学科・学年	音響芸術科 レコーディングエンジニアリング専攻 1 年次	必／選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員	鎌田裕明	教員の実務経験		有	実務経験の職種		エンジニア		
【科目の目的】 スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を習得する。									
【科目の概要】 実習ではメモ帳を活用して進行する。また演習は講義形式で行う実習と連動した科目である。項目により、グループで行うものや、個別に作業を行う場合がある。グループで行うものは各自の役割をつかみ、関連した仕事についても習得していく。									
【到達目標】 A. アナログ卓とデジタル卓の違いを操作・仕組みともに理解する。 B. Pro Toolsとミキサー卓の繋がり方を理解し基本的な録音操作ができるようになる。 C. アーティストとのコミュニケーションを取りながらチームで作品を作る。									
【授業の注意点】 音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	アーティスト側の要望に応じてミキサーのオペレートができる	アナログ卓とデジタル卓を理解し必要な操作を的確に行うことができる	アナログ卓とデジタル卓の信号の流れを理解している	アナログ信号とデジタル信号の仕組みの違いを理解している	アナログ信号とデジタル信号の違いを説明できない				
到達目標 B	アーティストの要望に対して適切なPro Toolsのオペレートができる	適切な信号をCUE BOXを通してアーティストに返すことができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解でき必要な信号を外部機器に送ることができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解でき信号の録音・再生ができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解できない				
到達目標 C	チームとして作品を完成させることができる	チームの中で役割分担をし自分の動きを理解している	アーティストやスタッフとコミュニケーションをとり必要な作業を把握できる	アーティストやスタッフに挨拶ができ作業の打ち合わせができる	アーティストやスタッフに挨拶ができない				
【教科書】 適時音響映像設備マニュアルを使用。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 ルーブリックに基づく評価を行う。評価方法は主にグレード試験と提出物で行う。また補足的にレポート評価を行う場合もある。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

